

2011年(平成23年)5月29日(日曜日)

歴史的な意義を紹介

増毛山道 6月中旬に豆辞典完成

【増毛】NPO法人増毛山道の会(伊達東会長)の会員は、豆辞典「増毛山道あれこれ」の作製に取り組んでいる。一般向けの増毛山道の資料としては初の取り組みになり、完成は6月中旬の予定。パネル展や山道体験ツアーの参加者らに配布し、山道の持つ歴史的な意義を紹介する。増毛山道は、江戸時代末期の安政四年(一八五七年)に増毛のニシン漁場を請け負っていた商人の伊達林右衛門が自費を投じて完成させた。増毛町別荘地区と石狩市浜益地区幌を山越えて結ぶ約三十七キロの山岳道路。

豆辞典は、山道を整備した歴史的な背景や工事費用、山道にまつわる事件を紹介するほか、山道の会が二十一、二十二年度に行った一部区間の復元作業で確認した道内では一番高い場所にある一等水準点、電報を送受信するための電信柱について設置のいわれなどを紹介する。豆辞典は、A5判の二十一ページ、五百冊を印刷する予定。完成品は、七月から十月にかけて毎月一回程度開催する増毛山道体験ツアーの参加者をはじめ、町総合交流促進施設元陣屋や留萌振興局ロビーで開くパネル展の来場者、同会の入会者らに配布する。

山道の会では、十七年度に増毛町史、浜益町史などから山道に関する資料を集めた「増毛山道の話しあれこれ」と題する閲覧用の約八百ページの資料集を作製しているが、大勢の人に山道の関心を持ってもらうために一般向けの分かりやすい資料が必要と判断し

た。同会事務局長の小杉忠利理事は「二十二年度現在の会員数は正会員、賛助会員合わせて百四人、八団体。二十三年度は会員目標が二百人。豆辞典を発行することで会員数の増大につなげたい」と話している。

(木村繁)